

御 嶽 山

概況(平成 15年 8月)

火山活動は、落ち着いた状態が続きました。

地震活動、噴煙活動、地殻変動に異常な変化はありませんでした。

8月5～8日にかけて行った機動観測による噴気地帯の状況、地殻変動の観測結果についても合わせて記載します。

地震活動の状況

火山性地震の発生状況は、三岳村、開田村等で震度1を観測した地震が今期間4回発生しましたが、これらの地震は1984年長野県西部地震の余震域及びその周辺で発生したものであり、火山活動との関連はないと考えられます。また、一日当たりの地震回数は0～7回でしたが、そのほとんどが、前出の領域における地震であり、御嶽山山体直下の地震活動は、静穏な状態で推移しました。(表1、図1、2)。火山性微動は観測されませんでした。

表1 火山性地震日別回数表(御嶽山A点)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
	5	3	5	5	6	0	2	2	2	5		35	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
	6	1	3	0	4	7	4	2	7	4		38	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
	5	3	1	4	1	5	6	4	2	5	0	36	109

短期・日別 地震活動推移(最近2年間の火山性地震の日別回数)

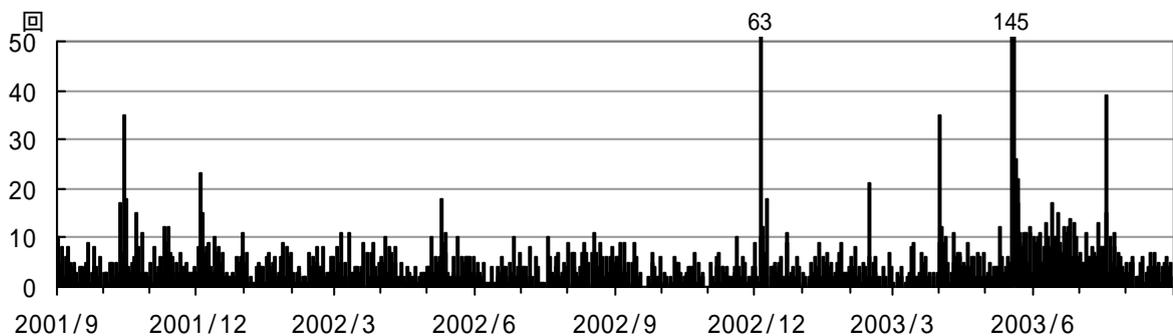


図1 御嶽山 火山性地震日別回数(2001年9月1日～2003年8月31日)

長期・月別 地震活動推移(1989年1月以降の火山性地震の月別回数)

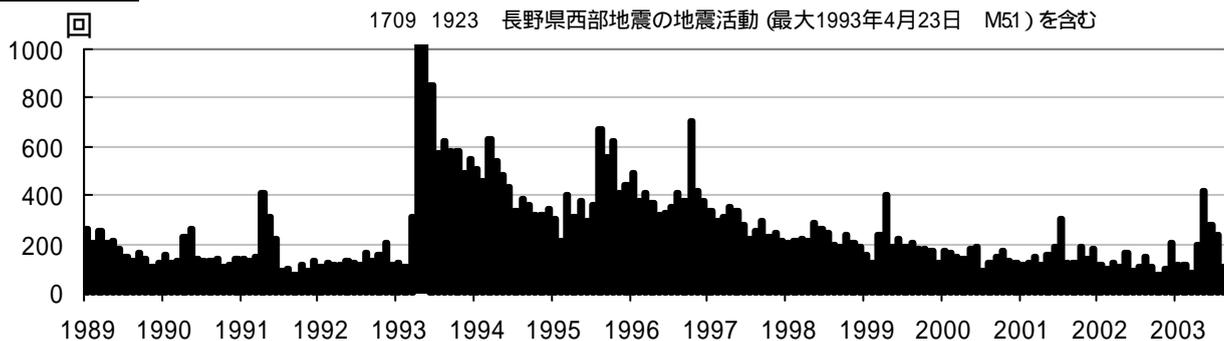


図2 御嶽山 火山性地震月別回数(1989年1月～2003年8月)

噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、視程不良等のため、今期間噴煙は観測されませんでした(図3)。

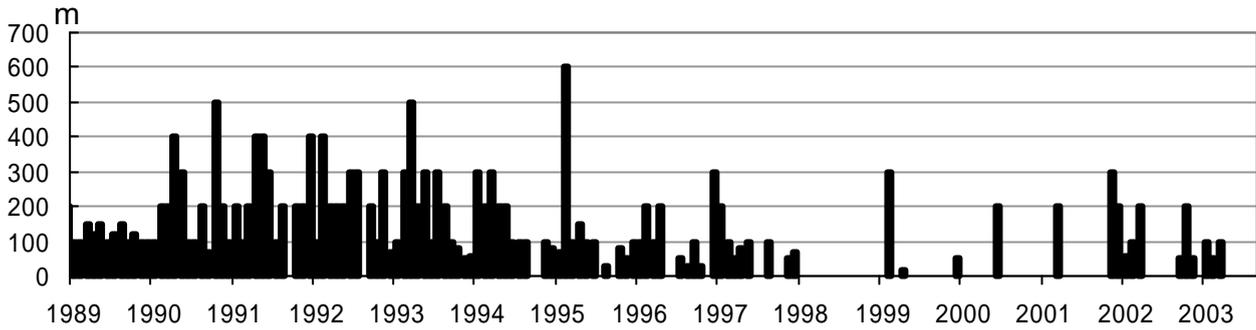


図3 御嶽山 月別最高噴煙高度(1989年1月~2003年8月)

噴気地帯の状況

8月6日に、御嶽山王滝頂上噴気地帯の噴気温度観測および地獄谷噴気地帯の遠望観測を実施しました。噴気活動は、2002年10月に行った前回の観測時と比較して、S-3噴気孔の噴気温度が若干低下していましたが大きな変化は観測されず、落ち着いた状態が続いています(表2、図4~6)。

表2 噴気地帯の状況

観測地点	噴気状況	その他
王滝頂上 (S-1)	4つの噴気孔から高さ数m程度の弱い噴気を確認。	硫黄臭あり。 噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。
王滝頂上 (S-3)	大きな噴気音を伴いながら数十m程度の高さまで達していた。	強い硫黄臭あり。 噴気孔周辺に硫黄昇華物付着。
地獄谷 (S-4)	数十m程度の高さまで達していた。	剣ヶ峰からの遠望観測
地獄谷 (S-5)	大きな噴気音を伴いながら数十m程度の高さまで達していた。	〃
地獄谷 (S-6)	間欠的に数十m程度の高さまで達していた。	〃

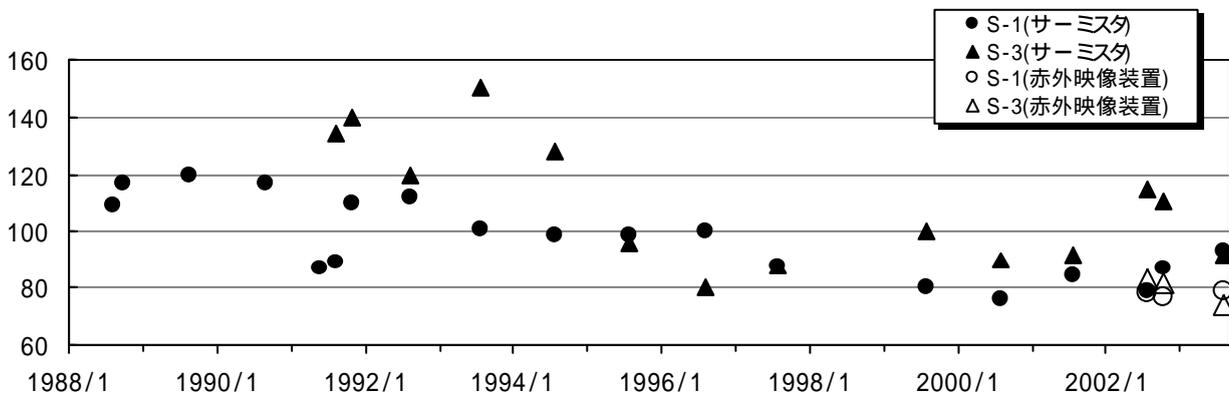
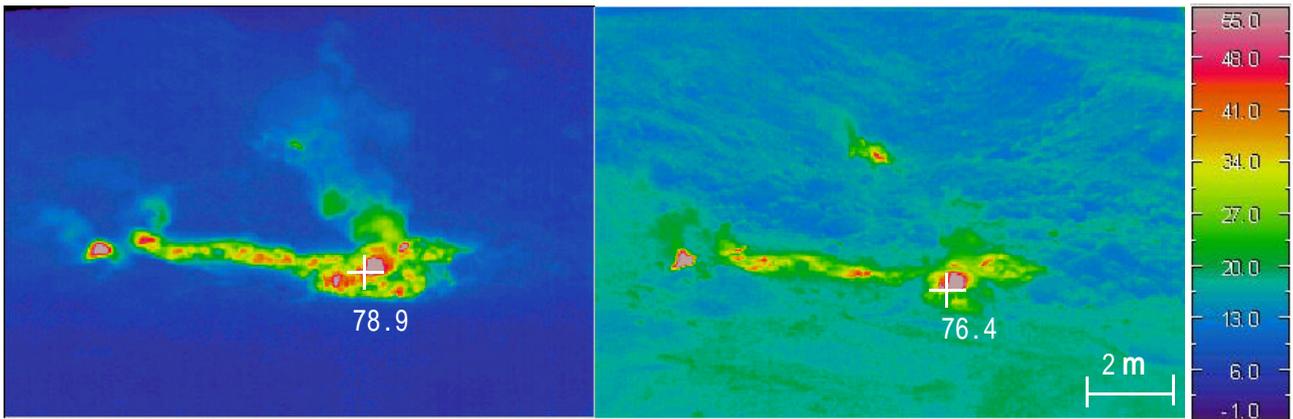
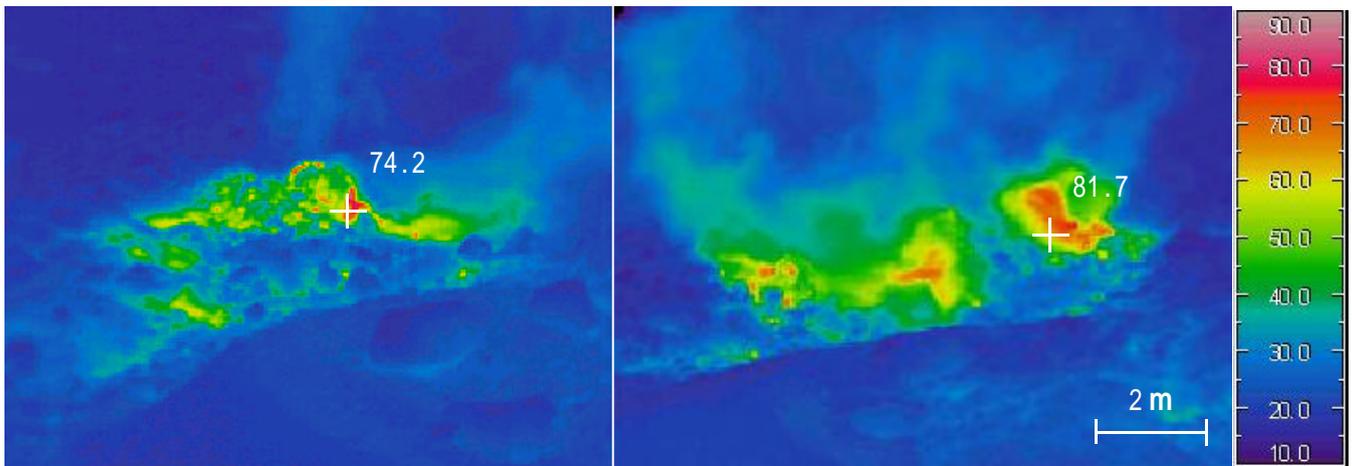


図4 御嶽山 王滝頂上噴気孔 最高噴気温度(1998年8月~2003年8月)

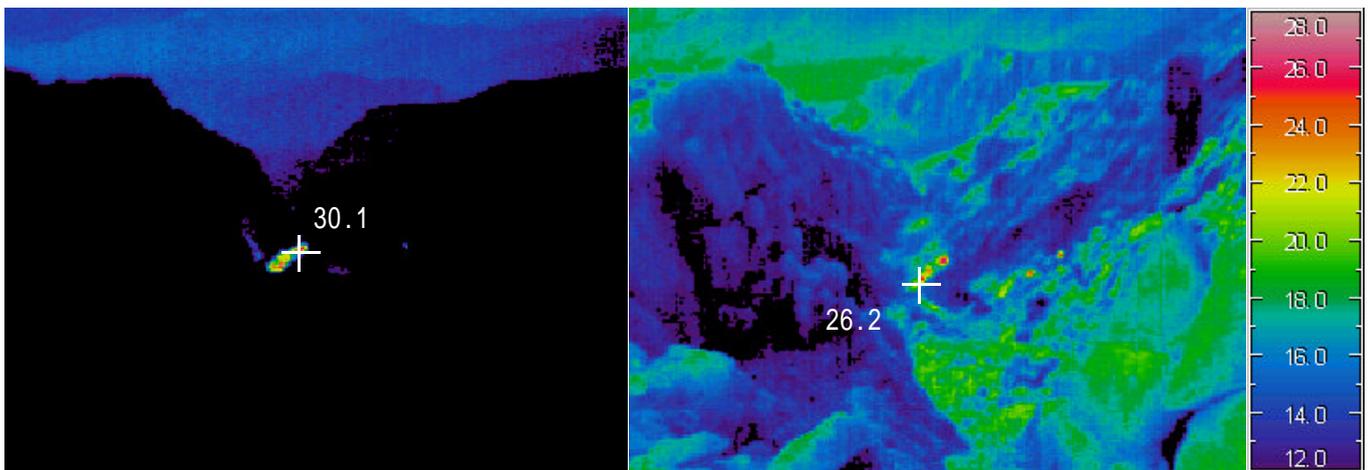
*2002年7月以降はサーミスタ温度計、熱赤外映像装置の両方の測定値を表示



S-1 噴気地帯



S-3 噴気地帯



剣ヶ峰から観測した地獄谷(S-4 ~ S-6)噴気地帯 (S-4、6 噴気地帯は直接見えない)

図5 熱赤外映像観測装置による各噴気地帯の地表面温度分布(温度は最高値)

左: 2003年8月の結果 右: 2002年10月の結果

* 今回(2003年8月)は、日が昇る前に観測を行ったため日射の影響がなく、地熱の影響がない部分は前回(2002年10月)に比べ低い温度となっている。

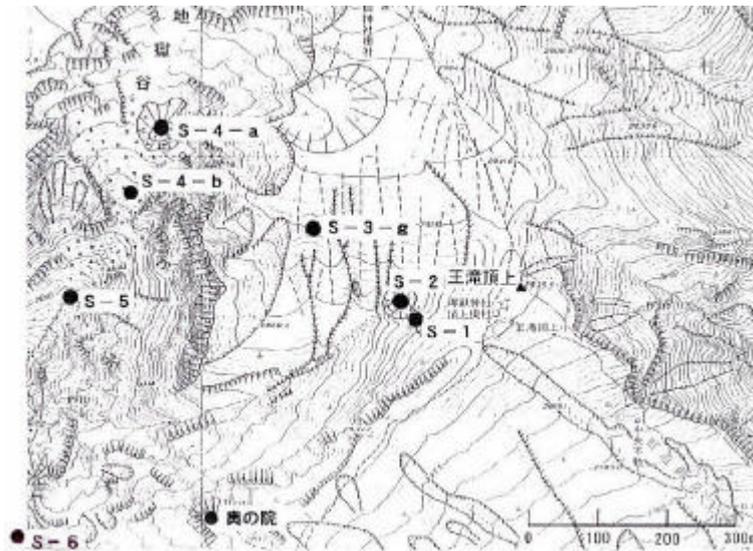


図6 御嶽山 噴気地帯分布図

地殻変動の状況

GPS観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした(図7)

また、8月6~7日にかけて行ったGPS繰り返し観測では、昨年10月に行った観測結果と比較して、火山活動によるとみられるような有意な地殻変動は確認されませんでした(図8)

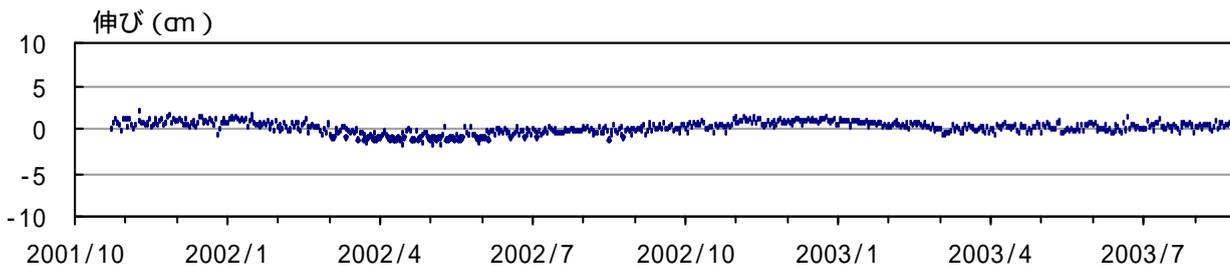


図7 御嶽山 GPS観測結果(2001年10月1日~2003年8月31日)

田ノ原 - 濁河温泉下 基線長変化 (観測点間(下図)の距離8,622m)

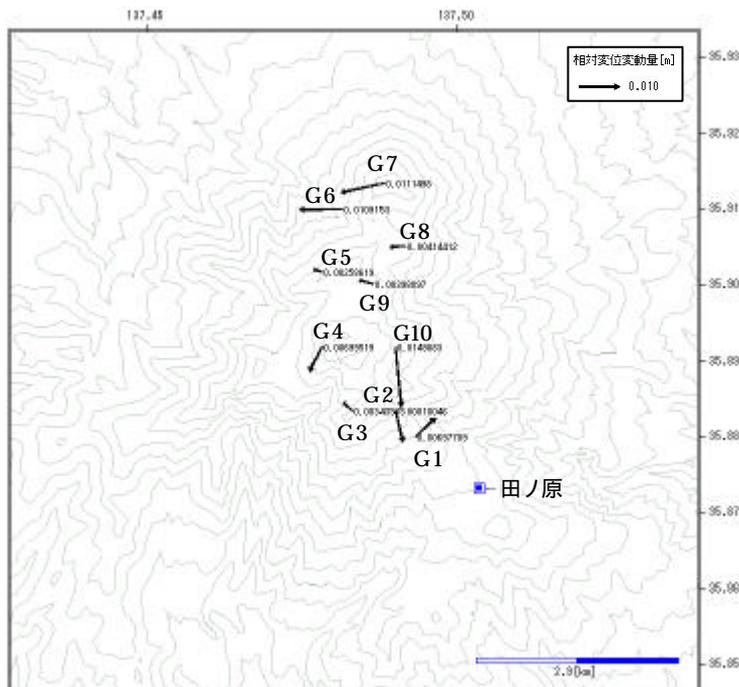


図8 御嶽山 田ノ原を固定点とする

GPS繰り返し観測点(G1~G10)の相対変位量(2002年10月~2003年8月)

